

令和7年度 第3回東区まちづくり懇話会議事録（要旨）

1 開催日時

令和8年（2026年）3月16日（月） 午前10時

2 場 所

東区役所101会議室

3 出席委員（順不同）

田中、中釜、西原、井川、都崎、入江、

4 次 第

(1) 議事

(ア) 令和7年度東区まちづくり推進事業実績報告【資料1】

(イ) 地域パワーアップ大作戦表彰制度説明【資料2】

議事発言要旨

- 事務局

本日の議事については、田中副会長にお願いする。

- ◆ 副会長

議事を進める。

議事（ア）「令和7年度東区まちづくり推進事業」の実績報告をお願いする。

- 事務局

令和7年度東区まちづくり推進事業について事務局から資料1に沿って実績報告。

- ◆ 副会長

事務局からの説明に対し、委員から御意見、御提案などお伺いしたい。

- ◎ 委員

令和7年度の文化処方事業に一度参加したが、とても良い活動ができていると感じた。アートを通したコミュニケーションに加え、交流しながら世代間のつながりも生まれていると思う。令和8年度も取組を進めていく中で、ここで生まれたコミュニティが、将来的には防災などにもつながっていけばよいと考えている。防災には地域コミュニティが不可欠であり、そうした面での活性化を期待したい。とても良い取組だと思う。

- ◎ 委員

05番（別添資料1の各ページの見出しに振られた番号のこと。以下同じ。）について、秋津公民館では、年間を通じてさまざまな活動が行われており、自然と人が集まる仕組みができきていると感じている。集まる人たちは多様なワークショップを実施しており、さまざまなスキルを持った方が来られている。初めて来た人でも、「この公民館に来るとこういう人たちとつながれる」ということが分かるよう、現在できつつあるプラットフォームの中で、紙媒体などによる可視化ができるとよいのではないかと思う。

- ◎ 委員

あさひばりリビングがとても活性化していると感じており、月出校区に住んでいるが、自分も行ってみたいと思った。ただ、移動手段がなく、行きたくても覗きに行けない方もいるのではないかと感じている。何かしら移動手段があるとありがたい。また、あさひばりリビングで活動している方たちが、各校区の公民館で同様のワークショ

ップを出張開催するような仕組みがあれば、東区全体の事業としてさらに広がるのではないかと思う。

健軍商店街についても拠点性は素晴らしいが、移動のしづらさを感じる場面があるため、開催時のみの周回バスや低料金で利用できる交通手段の検討をお願いしたい。

◎ 委 員

日頃からまちづくりセンターの事業において協力を受けており、夜市への参加や学生部と連携した出し物など、学生目線で健軍商店街の活性化について考えてもらっている。本日夜にも発表があるため、その内容を聞き、商店街で継続的に活かせる取組について検討したい。

集客やイベントの面では、交通の便に関する意見を日頃から多く受けており、車で来て飲めない、益城方面から来にくいといった声がある。公共交通の課題は商店街単独では難しいが、行政と相談しながら、できる範囲で対応していきたい。若い世代の発想を活かし、まちなかの活性化につなげていければと思う。

◎ 委 員

06番、10番にもあるように、若い世代の参加や若い世代を対象とした取組が重要だと感じている。8月23日の事業では、こどもと保護者で参加できる形での参加を呼びかけたと聞き、保護者も参加しやすいと感じた。

また、11番の健康増進カルタについては、すでに完成しているのか確認したい。PTAでは、保護者・こども・先生が一体となって活動しており、健康増進カルタなどPTAと連携して取り組めるものがあれば、協力できるのではないかと思う。

● 事務局

健康カルタについては、現在一旦完成しているが、今後の取組として、絵札の作成などを小学生を対象に募集できないか検討しているところである。こどもたちが関わることで、事業への関心や参加意識の広がりにつなげたいと考えている。

◎ 委 員

15番のまちづくりリーダーのたね授業に関連して、託麻北校区で実施している地域食堂の会場について確認したい。小学校の調理室で行われているように見えたため、小学校敷地内での取組であれば、東区が初めての事例になるのではないかと感じた。

また、地域の方がこどもたちと一緒に調理し、共に食べる「共食」の取組は、地域の多様な人材が関わる点で、コミュニティ・スクールの第一歩とも言える大変意義のある取組だと思う。今後、ぜひ広げていってほしい。

● 事務局

地域食堂の主な会場は、近隣のコミュニティセンターで、小学校とは隣接していないが、距離は 100 メートルに満たない。12 月以降、こどもたちが作成した飾り付けや BGM を取り入れたことで、参加者は 60~70 名程度に増加した。

また、小学校の調理室については、調理の時間を活用し、こどもたちが考えたメニューを地域の方と一緒に調理・試食する取組を実施しており、地域住民も参加する形で進めている。

◎ 委員

地域食堂において、こどもたちが実際に調理に関わることが可能なのか伺いたい。質問した背景として、大学進学を機に一人暮らしを始めるこどもを持つ立場から、幼い頃から調理に少しでも関わる経験があることはとても大切だと感じている。小学生の頃から包丁を使ったり料理に触れていれば、将来一人暮らしをするときにも困らず、また大人になったときにこども食堂などに関わろうという意識につながるのではないかと思う。料理ができるということを自分の特技として持てるこどもが育つ可能性もあり、こうした場でこどもたちが調理に興味を持つきっかけがあれば嬉しいと感じる。

● 事務局

地域食堂については、現在は地域の大人が調理を行っており、食品衛生上の配慮から、こどもは調理の場には立ち入らない形としている。

◎ 委員

15 番のまちづくりリーダーのたね授業と、14 番の若者まちづくりリーダーズ事業の活動は別々に実施されている認識でよいか確認したい。また、現時点では連携はないとのことだが、将来的に何らかの関わりがあっても面白いのではないかと感じている。例えば、小学生にとっては、高校生が夜市で料理をしたり働いている姿を見ることが刺激になると思うし、逆に高校生が小学生と一緒に料理をしたり、郷土料理を学ぶ場があってもよい。ただ見合うだけでも世代間のつながりが生まれ、双方にとって相乗効果があるのではないかと感じた。

● 事務局

ご指摘のとおり、14 番の事業は高校生、15 番の事業は小学生を対象とした取組として整理しており、別々に実施している。これまでに特段の連携や関わりはない。当初から高校生同士や他世代とのつながりについても検討はしていたが、高校生の行

動範囲が限られており、託麻方面まで移動することや安全面への配慮などから、実際の連携は難しい面があった。今後については、安全性等を踏まえながら、何らかの連携ができるか検討していきたい。

◎ 委員

移動の問題はやはり難しいと感じている。14番の事業について、高校生は複数の高校から参加しているのか、それとも決まった高校なのか伺いたい。また、第二高校と聞いたが、普通科の生徒なのか美術科の生徒なのかも確認したい。

さらに、高校生がこうした活動に参加した場合、ボランティア証明などの活動証明が発行されるのか伺いたい。活動証明があることで、評定や推薦などにもつながり、参加の間口が広がるのではないかと感じている。

● 事務局

14番の事業については、今年度は第二高校の生徒8名に参加してもらい、普通科・美術科の両方の生徒が含まれている。授業とも連携し、活動やワークショップで不足する部分については、総合学習の時間を活用して学びを深めてもらい、その時間にも関与した。小学生との直接的な学び合いは行っていないが、2年間事業を進める中で、商店街の若手事業者が主体的にまちづくりに取り組む姿を高校生が見ることで、大人から学びにつながる機会は一定程度生まれたと感じている。また、活動に参加した高校生には活動証明書を発行している。

◎ 委員

ボランティアポイントとして書けないことが多く、原因として制度がまだ十分に知られていない、浸透していないことがあると感じている。高校側からも、学校として一定程度選定・後押ししてもらえるとよいのではないかと思う。ボランティアはポイントや証明だけでなく、実際の経験や高齢者とのつながりなど、さまざまな価値がある取組であり、そうした意義がより広がっていけばよいと感じている。

◎ 委員

05番のあさひばりビングについて、今年度は現地に行くことができなかったが、資料等から興味深い取組だと感じて見させてもらった。来年度に向けた方向性も概ね理解しているが、課題としては、単発で終わらせず、継続的な参加や参加者同士の交流につなげていく点が重要になるのではないかと思う。その点について、現時点で具体的な計画があるのか伺いたい。

● 事務局

現在考えている取組としては、令和 7 年度 5 月に実施した仕事ワークショップが好評だったことを踏まえ、近年関心の高い「発酵」をテーマにしたワークショップを複数回実施できないか検討している。1 回限りのワークショップでは、定員 14 名の参加者同士が十分につながることが難しいため、月 1 回程度のシリーズ開催とし、回を重ねる中で新たなコミュニティが生まれることを期待している。現在は、そのような形での企画を検討している段階である。

◎ 委 員

例えば、ハンドメイドや業界研修のような形で、「発酵」をテーマに人に伝えられる人材を育てていく取組があってもよいのではないかと思う。そうした人が育てば、別の地域から声がかかった際に出向いて実施するなど、複数の場所で同時に展開していくことも可能になるのではないかと感じた。とても興味深く、ぜひ自分も参加してみたい取組だと思った。

◎ 委 員

今回初めて参加したが、こうした活動が行われていること自体をこれまで全く知らなかった。まちづくりセンターを中心に、こどもから高齢者まで幅広い世代を対象にさまざまな事業が展開されていることに驚いている。委員の意見を聞く中で、取組の充実ぶりを実感し、これまで関わる機会がなかったが、今後は積極的に参加していきたいと考えるようになった。

◎ 委 員

個人的な話になるが、昨年 4 月に初めて熊本に来て、そこからこのような取組が行われていることを知った。一人でも知り合いができると、急に情報が入ってくるようになるという感覚があり、そうした情報が自然に届くような仕組みがあるとよいのではないかと感じている。先の意見を聞き、同様の思いから発言させていただいた。

◆ 副会長

続いて、議事（イ）「地域力パワーアップ大作戦の年間表彰制度」について、事務局からの説明をお願いします。

● 事務局

「地域力パワーアップ大作戦」事業の年間表彰制度について事務局から資料 2 に沿って説明。

◆ 副会長

事務局からの説明に対し、委員から御意見、御提案などお伺いしたい。

◎ 委 員

地域カパワーアップ大作戦については、第1回・第2回のワークショップに参加していたが、現在このような形で取組が具体的に展開されていることを知り、改めて驚いた。説明会への参加だけでは全体像を十分に把握できていなかったため、今回の説明を聞いて理解が深まった。

◎ 委 員

投票は1人1票という形なのか確認したい。また、投票者は委員のみなのか、それとも他にも対象者がいるのか伺いたい。1つに絞るのは正直悩ましいと感じている。今回、初めて知る取組も多いが、評価はこの冊子を基に行うという理解でよいのか。

あわせて、表彰式は5月に開催される予定か、市長の出席予定があるのかも確認したい。

● 事務局

投票は1人1票となっている。投票者は委員に加え、これまで参加いただいた企業や地域の代表者も対象としている。取組の内容については、冊子のほか、市のホームページにも一部掲載しているため、それらを見て判断してほしい。投票期限までは時間があるため、ゆっくり検討していただければと思う。

また、例年5月末頃に事例発表会を行っているが、次年度は同様の時期に表彰式を開催する予定である。市長の出席については現在調整中である。

◆ 副会長

以上で議事を終了する。